

【現代風“組織一丸”マネジメント】シリーズ  
組織活力の素としての“学び”の意欲の源泉！

難しい人間関係の基本的な部分を見るための『まねじめんと』

【明日を考えなければ今日は楽？】

一般に、明日のことを考えなければ、今日の努力の範囲は狭くなる傾向がありそうです。たとえば、明日面談する顧客への“対話や提案の準備”を考えないなら、今日の仕事は今日必要なものだけで終わると言うことです。

逆に、当たり前ですが、明日の“面談準備”に取り組むなら、明日にしか成果が出ない事柄に、今努力していると言えるのです。

【“当たり前”が時間の長さで薄くなる】

この“当たり前”が、今日と明日から、現在と将来にまで拡大してしまうと、徐々に“当たり前”さの実感が薄れて行きます。

つまり、今日成果が出なくても、将来のために備えるべきだとは思えないほど、将来が“遠く”見えてしまうケースが出るということです。

【“学び”が後回しにされるとしたら…】

そのため、いわば“将来への準備”でしかない“学び”や“勉強”は、だんだん後回しにされてしまう傾向があるのでしょうか。そして、徐々に“現在の窮地の原因”も見えなくなってしまうのかも知れません。

【今の不都合の原因は“どこ”にある？】

たとえば、明日の顧客訪問なら、『ああ、昨日準備しなかったから失敗した』と容易に思えますが、遠い過去の準備不足は、なかなか思い出せないと言うことです。“今の不都合”はかつての準備不足や不手際の結果ではないかという考えは、想像以上に重要かも知れません。

【長期的に出てしまうパワーの差】

そういう意味では、必ずしも“すぐには成果が出ない学びや教え”は、決して軽視できないものだと言えそうです。それどころか、長期的なパワーの差は、まさに“学びの姿勢”そのものの差から生まれるのかも知れません。

【ご希望者には定期購読をお勧めします】

しかし、その学びも、経営者と従業員では異なるはずです。また、従業員の皆様の間でも、学び方や教え方には、自然に“違い”が出るかも知れません。そこで、そうした観点から、改めて“経営者の学び”や“従業員教育の方向性”を考えたマネジメント・レポートをご用意いたしました。

定期購読(有料)希望者には当レポートの完全版を毎月お送りしますので、ご一報ください。



社内の陣容が“高齢化”したり、事業上の“変化”が乏しくなったりすると、“社内教育”のあり方を、改めてイメージしにくくなるケースが増えるようです。同様に、経営陣の自己研鑽に関しても、“これ”と言って魅力的なテーマが見えにくいのも現実かも知れません。

しかし“意欲や意識が停滞”すると“事業も停滞してしまう”という現実も見逃せません。今、思い切った“発想転換”に取り組むことも重要になりそうなのです。

少数精鋭でビジネスに取り組む皆様、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぶりめんとニュース』にご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所  
983-0834 仙台市宮城野区松岡町 20-61

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>

わたくしたちは、“ヒト”に関する重要課題の提言を通じて、皆様方の経営をご支援申し上げます！